



春夏秋冬⑤ バレンタインデー

2月14日は 愛と友情を 確かめ合う日

文・写真 篠田有史

フォトジャーナリスト。1954年岐阜県出身。スペイン、ラテンアメリカを中心に市井の人々を撮り続けている。共著に『コロンブスの夢』『居場所をなくした子どもたち』など。

メキシコの首都メキシコ市は露天商の町である。タコスなどの食べ物から、衣料品、日用品、さらにはちよつとした電化製品まで、ほとんどの物が路上で手に入る。ないのは大型家電くらいのものだ。

2月14日のバレンタインデーが近づくと、その露天商に赤やピンクの風船やぬいぐるみなどを売る人々が増える。メキシコではバレンタインデーのことを「愛と友情の日」と呼び、恋人や友人たちが、互いの愛と友情を確かめるためにプレゼントを贈るのだ。

日本ではいつからか、女性が男性にチョコレットを贈る日になってしまったが、メキシコでは男性もプレゼントをするし、もちろんそれはチョコレットでなくても構わな

い。女性同士でも贈り合うが、男性同士はあまりしないらしい。

情熱的なメキシコ男性の中には、恋人のために、「マリアッチ」と呼ばれる大衆音楽を奏でる楽団を雇って彼女の家の前で演奏をしてもらう人もいるそうだが、その愛がいつまで続くのかはラテン気質なので保証はできない。メキシコの母親の4人に1人はシングルマザーといわれ、さまざまな社会問題の原因となっている。

